

平成 17 年度 長崎大学附属図書館 中央図書館・医学分館・経済学部分館 合同企画展
長崎大学所蔵資料から見る長崎の近代化 - 経済学部創立 100 周年記念 -

鳥瞰写真で見る明治初期の長崎



長崎市街と長崎港

(目録番号 : 3879)

左端の梅香崎の埋立地に建物が建ち込み、波止場には長崎税関が見える。新地の海岸側には洋館が建てられ、裏側では護岸工事が進んでいる。変流前の中島川の河口には明治 2 年(1869)に架けられた新大橋が見える。出島では、築町の対岸側に新しい洋館が建っているが、明治 9 年(1876)建設の美以教会の鐘塔も、同 11 年(1878)建設の聖公会神学校の鐘塔も見えない。したがって、撮影時期は明治 5 年前後である。暴風雨で倒壊した初代県庁舎に代わって、明治 9 年に新築される 2 代目県庁舎もまだ見えない。五島町あたりには諸藩の蔵屋敷が多かった。めぼしい大きな建物が市街にまだない頃の、風頭山から見た典型的な明治初期の長崎の鳥瞰である。

平成 17 年 10 月 18 日 (火) ～10 月 27 日 (木)

長崎大学附属図書館中央図書館

【古写真データベース】 http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/old_pic/

1 長崎のパノラマ (5615~5617) 【特大】

風頭山から長崎市街中心部をパノラマ撮影した写真。梅香崎の高台から長崎県庁、県庁から現在の長崎市役所までの高台を過ぎ、尋常高等小学校(現・桜町小学校)から諏訪神社に至る、3枚綴りの写真である。中島川は河口付近から大井出橋まで見る事ができる。中島川変流工事が完了しているの
で、明治26年(1893)以降の撮影。

1枚目の写真には、左から梅香崎の高台、その先の長崎税関、新地、出島と変流後の中島川、長崎県庁から地方裁判所までが撮影されている。

2枚目の写真には、控訴院、長崎商業学校、長崎市役所が撮影されている。中島川の石橋は下流から、袋橋、眼鏡橋から薄原橋まで含まれている。

3枚目の写真には、桜町から尋常高等小学校を経て、諏訪神社に至る範囲が撮影の対象である。写真の左下の寺院は光永寺である。一覧橋、古町橋、編笠橋、大井出橋が見えている。明治20年(1887)代後半の長崎市街中心部が鮮明に撮影された貴重な写真である。

2 長崎市街の中心と梅香崎居留地 (0762)



英国人写真家ベアトによる1866年3月の書き込みあり。風頭山から長崎市の中心地及び出島、新地、梅香崎を遠望する。中島川河口にはまだ橋がなく、長崎奉行所の西役所が右上に見える。新地の裏はまだ海続きである。長い屋根は新地蔵の倉庫群。大浦居留地に連続して梅香崎居留地の造成が
終わったところ。海上には外国船舶が多数入港している。

3 長崎市街と長崎港 (5882)

風頭山から飽の浦と長崎港を眺望する。左端の樹木の繁る丘は東山手、中央より右寄りに出島。中島川の河口には、明治2年(1869)に架けられた新大橋が見える。漆喰で塗られた瓦屋根が目立つ明治10年代の長崎の町並み。

4 長崎港のパノラマ (0515)

風頭山から長崎市街地南部を鳥瞰。中島川の変流工事が完了した明治26年(1893)頃。変流点には長久橋が、出島東側には出島橋が、いずれも明治22年(1889)に架設された。旧中島川河口近くに見えるのは同じ年に建設された十八銀行。背後は出島の聖公会神学校である。写真右端には、明治9年(1876)に建設された木造2階建て4棟の長崎県庁が、左端に

は、明治23年(1890)に竣工した長崎税関の新庁舎が見える。

5 長崎市街中心部と長崎港 (3866)



風頭山の南端から撮影。第1次長崎港改修事業完了後の明治26年(1893)頃。中島川は出島の背後に変流し、河口には、明治23年(1890)架設の新川口橋が架かっている。銅座川が新地の北側を流れるようになり、新地の海岸部には大規模な中国商社の建物が並んでいる。明治中期の急激に近代化する長崎市街地中心部を撮影した写真である。

6 長崎市街中心部 (0981)

風頭山から見た長崎の旧市街と港の風景。街の中心部分に左上がりに中島川が写っている。中島川に架かる石橋は、右隅の薄原橋から順に、東新橋、魚市橋、眼鏡橋、袋橋、古川橋、榎津橋。左手の白い建物の一画は、地方裁判所、区裁判所、控訴院。中央の2階建て2棟の建物は明治18年(1885)8月に建設された公立長崎商業学校である。

7 長崎市街北部及び長崎港 (5507)

風頭山から撮影した、長崎市街中心部、現在の長崎県庁から長崎市役所に至る高台から大黒町を経て、右端に浦上新田を撮影したもの。明治20年(1887)頃の撮影。写真下側の市街地の中心部に中島川が見える。明治中期の繁栄した長崎の密集した市街地を見ることができる。

8 長崎市街と長崎港 (3879) ※表紙の写真 【特大】

9 南山手より長崎港湾奥を望む (5301)

南山手の先端、グラバー邸付近から長崎湾奥を望む。艦船の多くはまだ機帆船で、幕末から明治初期である。左手は飽の浦・稲佐地区で、左隅の白い建物は官営飽の浦製鉄所。右手は長崎市街の沿岸部、浦五島町から大黒町である。右上の山は立山。明治・大正・昭和と長崎湾の埋め立てが進み、このように広大な長崎湾の姿を見ることはできない。

10 南山手の洋館群 (5880)

南山手の丘陵地から長崎港方向を展望する。ロシア寺またはニコライ堂と通称するロシア正教会(ハリストス正教会、長崎南山手イ19番ロシア領事館構内)の礼拝堂は棟上げして屋根を葺いたところ。竣工は明治38年(1905)である。

11 長崎大浦外国人居留地 (0792)

ベアト撮影。「ヨーロッパ人の居留地の一部と長崎の市街、65 年 6 月」と記されている。慶応年間(1865～1868)の長崎大浦の海岸通りと東山手の洋館群が詳細にうかがえる。右手の丘の上には、まだ建物が見られない。

12 南山手からの大浦居留地 (5887)

南山手から大浦海岸通りと東山手洋館群を望む。右手の丘には活水学院(ラッセル館)、長崎港の奥には出島の一部が見える。明治 10 年(1877)代末。

13 長崎港と浪の平・南山手 (3817)

南山手の琴平神社から居留地の南端と浪の平を展望する。右手前の大きな建物は、明治 20 年(1887) 尋常小曾根小学校の校舎を鍋冠山麓に新築し、改称した尋常鎮鼎小学校(後の浪平小学校)。玄関には先生らしき人が立ち、校庭には男女の生徒が見える。右手、丘の上の「ヨンゴ松」の直下はグラバー邸。明治 20 年代中頃。

14 長崎港と浪の平・南山手 (5461)

南山手外国人居留地の南端付近から長崎市街地方向を望む。右手前の大きな建物は尋常鎮鼎小学校。学校の裏手から山麓一帯が南山手外国人居留地。左側の町並みは手前から古河町、浪の平町。写真中央の工場付近が小曾根町の三菱炭鉱社と麦粉会社。居留地末期の明治 30 年(1897)頃。

15 大黒町及び出島と長崎港口 (0763)



ベアトによる 1866 年 3 月の書き込みあり。立山中腹から市街地北部と港口を遠望する。梅香崎居留地の埋め立ては完成しているが、明治 3 年(1870)に大浦川に架設される下り松橋(松ヶ枝橋)はまだ見えない。左手の松の木の間向こうの一群の建物は変流前の北側から見た出島。松の木の手前は長崎奉行所の西役所である。大波止から浦五島町、大黒町にかけての沿岸部は、第 1 次長崎港改修事業以前で、江戸時代の姿を残している。

16 立山からの長崎港遠望 (5565)

立山から長崎市街地北部と大黒町から出島に至る沿岸部を撮影。明治 10 年(1877)代頃。右端は旧佐賀藩の砲台で、大黒町から浦五島町、大波止を経て出島に至る。明治 20 年(1887)頃この沿岸部は埋め立てられ、時津街道が新設される。

17 福濟寺からの長崎市街 (5618)

福濟寺上の墓地から長崎市街地北部と出島から大黒町に至る沿岸部を望む。出島の変流工事が終わっておらず、明治 10 年代と思われる。出島から五島町に至る沿岸部は時津新道の整備がされていない。右側松の木の手前付近が砲台。中央の空地は後に中町教会が建てられる大村藩屋敷跡である。

18 長崎港と中町教会 (4215)



福濟寺裏山から長崎市街地北部と長崎港口を撮影。中央の赤い煉瓦の建物は明治 29 年(1896)旧大村藩屋敷跡に建設された中町教会。従って撮影時期は明治 29 年(1896)から、明治 32 年(1899)要塞地帯法により長崎市内の写真撮影が禁止される前までの間である。写真下部は福濟寺の本堂の屋根。写真右の煉瓦の建物は煙草専売公社。写真中央の沿岸部には海側に向けた倉庫の建物が並んでいる。

19 福濟寺上からの長崎港 (5110)

【四切】

現在の J R 長崎駅付近の埋め立て前を撮影したもの。明治 30 年から明治 37 年(1897-1904)にかけて第 2 次長崎港改修事業が行われた。写真中央の海中の堰のようなものは、九州鉄道の敷地の埋め立て予定地。手前の煙突はガラス工場、左の平地は旧佐賀藩から続く砲台。

20 福濟寺上からの長崎港 (5111)

【四切】

第 2 次長崎港改修事業完成後の長崎駅と大黒町付近。大正中期頃の絵葉書。写真中央の赤い屋根の建物は長崎駅、左側の海に面した建物は魚類集散場(魚市)、さらに左の大黒川河口の建物は水上警察署である。埋立て完成により、長崎市の骨格が完成する。

21 長崎のパノラマ (0034~0035)

【特大】

向かって左側の写真は聖福寺裏山中腹から市街地南方を撮影。道路が描く弧の頂点辺りが、現在、桜町の電停がある場所で、当時の小川町と船津町の境である。左手の大木の右側に長崎市役所が僅かに見えている。また、崖地が右上に伸び、右端中央に向かっているが、その上が県庁である。市街地の向こうに見える丘の上の林は、大徳寺であり、右の小高い丘は、十善寺と梅香崎の崖で、現・活水女子大学の場所である。その下に梅香崎居留地の洋館群が見える。

右側の写真は市街地北部と港口を撮影。左端中央付近に緑色の木立があるが、その左が県庁舎で、右が出島である。出

島の端にトラス橋が見えるが、これは変流工事後の中島川河口に明治 23 年(1890)に架設された新川口橋である。写真下部中央に見える道路の左側の空地は、旧大村藩の蔵屋敷跡で、明治 29 年(1896)に中町教会が建てられる。右手の緑の平地は、旧佐賀藩邸跡に建設された砲台であり、海岸線に並ぶ大砲を見ることができる。

22 星取山からの長崎港 (1288)



星取山から大浦居留地、出島、長崎湾奥を鳥瞰。左下の大浦川には慶応元年(1865)6 月に架設された弁天橋が見える。中島川河口に明治 2 年(1869)2 月に架けられる新大橋がないので、慶応元年から明治元年(1868)の撮影。長崎港は、万延元年(1860)に埋め立てられた大浦居留地を除けば、浦上新田が干拓された享保 15 年(1730)以来の姿を見せている。

23 十人町よりの出島と長崎港 (0977)



中央に出島、手前に新地蔵と梅香崎居留地を写す。出島の向こうの高台には明治 9 年(1876)建設の長崎県庁が見えるが、中島川の変流工事はまだ行われていないので、明治 10 年(1877)代の撮影。中央の橋は梅香崎と新地蔵をつなぐ梅香崎橋である。新地蔵には長い倉庫が見える。新地の先が築町で、僅かに新大橋が見えている。築町から出島には出島新橋が架かり、出島には教会が建てられている。

24 ドンの山から見た大浦居留地と長崎港 (5299)

大浦居留地背後の「ドン山」から大浦川沿いを展望。居留地の空洞化が進んでいる。右側の丘の大きな二階建て洋館は東山手 9 番のイギリス領事館で、ユニオンジャックの旗が翻っている。左手の丘には尖塔が一つになった大浦天主堂とその上に「ヨンゴ松」とグラバー邸が見える。明治 6~7 年(1873~4)頃。

25 長崎出島とロシア人居留地 (0794)

ベアト撮影。「長崎のオランダ人居留地出島と、湾の対岸のロシア人居留地、65 年 6 月」と記されている。慶応元年(1865)、出島の原型をとどめる貴重な写真。手前は新地蔵、対岸は稲佐のロシア人居留地である。

26 小島養生所と長崎市街地 (5383)

幕末から明治初期の撮影。中央に小島養生所が見える。万延元年(1860)5 月、小島郷佐古に病院を建て、民衆の治療に当たさせた。これが小島養生所である。文久元年(1861)には、養生所地続きの所に医学所が新設され、ポンペが内科外科の講義を行った。左下の窪地は唐人屋敷である。

27 小島養生所と長崎市街地 (5306)

小島の山手中腹から小島養生所越しに長崎市街東側から片瀬方面を望む。左下の窪地は唐人屋敷の内部で、一際大きな屋根は福建会館である。5383 の写真と比べると、火災の跡が見られるので、明治 3 年(1870)ここが全焼した後のもの。小島養生所は、建物が増え、施設が拡大している。

28 長崎製鉄所飽の浦工場 (5314)

開港する前の安政 4 年(1857)、飽の浦地区(現・三菱造船所)で、幕府はオランダ人ハルデスの指導のもとに、大型船の建造を目的とした長崎製鉄所の建設を始め、文久 2 年(1862)に完成させている。完成直後の飽の浦製鉄所。

29 長崎製鉄所飽の浦工場 (0978)

文久元年(1861)に落成した長崎製鉄所を譲り受け、明治 17 年(1884)に三菱会社長崎造船所飽の浦機械工場になった。工場の建物、50 トン起重機等の工場施設を見ることができる。対岸は西坂、大黒町付近。

30 対岸から見た長崎港/パノラマ (5517) [特大]

大波止から新地、大浦海岸通り、松ヶ枝橋、南山手、小曾根、浪の平、古河町に至る 3 枚綴りのパノラマ写真。中島川変流工事が終わり、新大橋、梅香崎橋、松ヶ枝橋がすでに架設されているので、明治 20 年(1887)代後半の撮影。長崎市街中心部から外国人居留地を経て、長崎市街地の南の端まで眺望できる貴重な写真である。

1 枚目の写真には、左側に海から見た出島の全景、中央に新大橋、新地と続き、梅香崎までが写されている。

2 枚目の写真には、梅香崎から南山手ロシア領事館付近まで。居留地の中心部が写されている。

3 枚目の写真には、南山手居留地中心部から南端を越え、古河町まで。南山手居留地の南端が写されている。右手、山の上の建物は聖ベルナル病院である。長崎港には軍艦や客船、和船や小船など、様々な船を見ることができ、帆船から汽船に移行しつつある船の近代化が写し出されている。

平成 17 年 10 月 18 日 長崎大学附属図書館 中央図書館
〒852-8521 長崎市文教町 1-14
TEL (095) 819-2192, FAX (095) 819-2196